

水害編ー1 ゲリラ豪雨による「内水氾濫」

四日市市では9月12日夜から13日未明にかけて大雨になり、天白川、鹿化川流域に避難指示が発令されたほか、中心市街地でも「内水氾濫」による道路冠水や地下駐車場の水没、商店への浸水などが相次ぎました。

市全体では、保々、桜、県、中部、常磐、橋北、川島の各地区で浸水被害が発生しました。

内水氾濫とは、大量の雨に対して下水道や道路側溝などの排水施設の機能が追いつかず、処理きれない雨水で土地や建物が水に浸かってしまう現象のことです。
特に市街地などで発生する傾向にあります。



・四日市市での観測史上最大の1時間123.5ミリの大雨

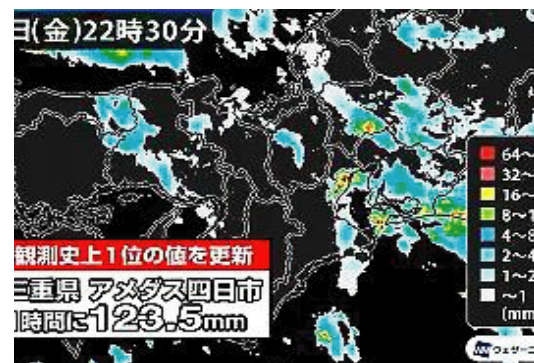
暖かく湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定になった影響で、短時間で猛烈な雨が降った。

名古屋地方気象台によると、12日夜、1時間降水量として四日市では観測史上最大となる123.5ミリを記録しました。

・「地下駐車場の浸水(くすの木パーキング)」

四日市市中心部の地下駐車場「くすの木パーキング」では、浸水で車が出せなくなり、4日後の16日まで、車が出せない状況が続きました。

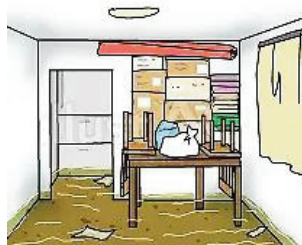
地下駐車場では最終的に車両計274台が浸水しました。



「地下駐車場内 (朝日新聞 HP から)」

「浸水」と「冠水」の違い

「浸水」とは、主に自宅やマンション、アパートなどの住居に水が入りこみ、水につかってしまうことを意味する。
「冠水」とは、田畑やそこで栽培されている農作物、あるいは道路などが水でおおわれてしまっている状態のことを指す。



「浸水」



「冠水」

ゲリラ豪雨とは？

ゲリラ豪雨とは、急に強く降り、数十分の短時間に狭い範囲に数十mm程度の雨量をもたらす雨です。
特に都市部で発生しやすい傾向にあります。

●ゲリラ豪雨のメカニズム

強い日差しで地表が熱されると空気の温度が上昇します。そのとき上空に冷たい空気があると大気の状態が不安定になって積乱雲が発達し、局地的に大雨を降らせることを「ゲリラ豪雨」と呼びます。気象庁では「局地的大雨」と呼んでいます。

ゲリラ豪雨は夏の夕方に突然暗くなって雷雨が発生する夕立に近い特徴があります。

ゲリラ豪雨が都市部で特に頻発する理由の一つが「ヒートアイランド現象」です。都市部では、アスファルトやコンクリートが太陽熱を蓄積しやすく、さらに自動車やエアコンの排熱、工場の排熱なども加わって、郊外よりも気温が高くなるからです。

※ ヒートアイランド (heat island=熱の島) 現象とは、都市の気温が周囲よりも高くなる現象のことです。(気象庁 HP から)

●ゲリラ豪雨は昔に比べて増えた

地球温暖化により大気中の水蒸気量が増加し、一度雨が降ると、より激しい豪雨になりやすい環境が整っているのです。

ゲリラ豪雨は昔に比べて増えています。
実際、1976年～1985年と比べた場合、2014年～2023年の1時間降水量50mm以上の年間発生回数は下表のように増加しています。

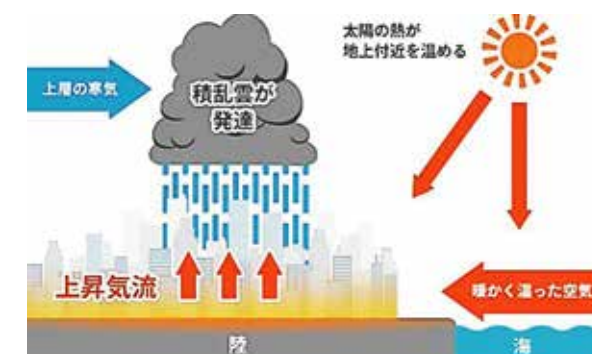
1時間降水量 50mm 以上の年間発生回数：1.5 倍に増加
1時間降水量 80mm 以上の年間発生回数：1.7 倍に増加
1時間降水量 100mm 以上の年間発生回数：1.8 倍に増加

資料：防災につぼん HP「ゲリラ豪雨 Q&A」から引用

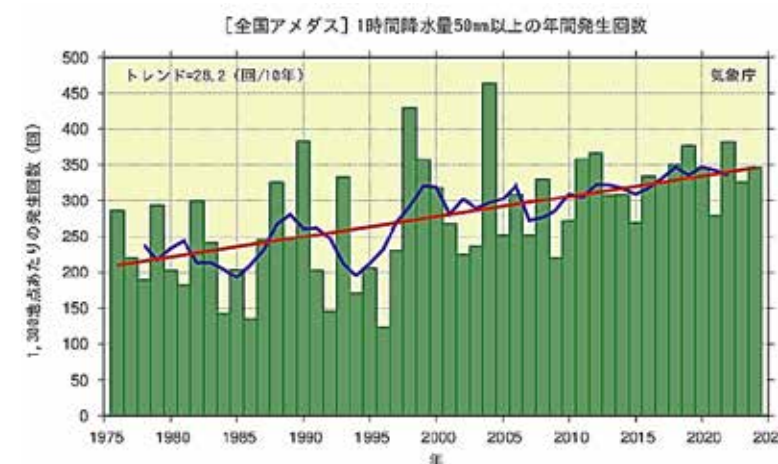
「防災だより NO. 20」

発行日：令和7年12月

発行者：大矢知地区自主防災協議会



資料：日本気象協会 HP
「ゲリラ豪雨のしくみ」から引用



● ゲリラ豪雨の前兆

過去には予想が難しいとされた「局地的大雨」の予報も、最近は色々なメディアで報じられているが、ここでは、その前兆についてご紹介します。

- ・ 「急に真っ黒な雲が近づいてくる」
- ・ 「雷鳴が聞こえる」
- ・ 「急に冷たい風が吹いてくる」

この前兆は、気象庁などの予報とともにゲリラ豪雨（局地的大雨）発生参考となります。

【ゲリラ豪雨の雲状況】

資料：日本気象協会 HP「ゲリラ豪雨のしくみ」から引用



京都 ゲリラ豪雨の「雨柱」



東京都心部 雷・ゲリラ豪雨

防災気象情報

● キキクルで、浸水災害の危険度を知ることができる

浸水キキクル（大雨警報（浸水害）の危険度分布）は、短時間強雨による浸水害発生の危険度の高まりを、地図上で1km四方の領域ごとに**5段階で色分け**して示す情報です。

常時10分毎に更新しており、雨が強まってきたときや大雨警報（浸水害）等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているのかを把握することができます。

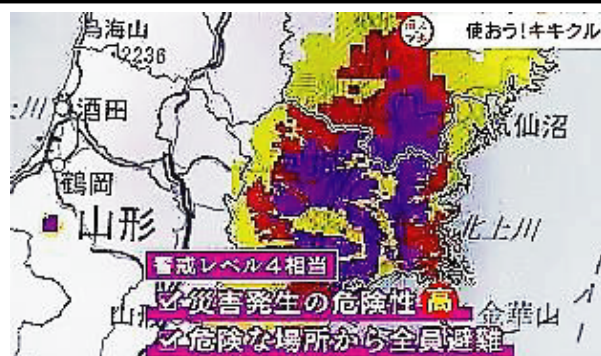
キキクルを活用することで、避難のタイミングを知り、早めに避難が可能となります。

※ キキクルは、気象庁のホームページで確認できます。

資料：気象庁 HP から引用



大雨で
"危機来る"



気象庁 QRコードで
アプリをダウンロード



URL <https://www.jma.go.jp>

「What we can do」～私たちにできること～

● 災害時「非常持出袋」の準備を

＊（防災だよりN○16の部分再掲あり）

災害が発生し被災した時、皆さんは次のように考えていないでしょうか

- ・ 誰かが何とかしてくれる
- ・ 緊急避難所に行けば助けてもらえる
- ・ 市から支援物資が届くので自分で何も準備しなくていい などなど

残念ながら各自治会により多少違いがあるかもしれませんが、最初から被災者全員に行き渡る支援物資を準備してあるところはまずありません。市などから緊急支援物資が届くまで各自で乗り切る自助の期間、**自分で準備した家庭にある備蓄品で生活することになります。**

それぞれの家庭に必要な「**あったらいいな**」を探して準備するようにしましょう。

特に高齢者、乳幼児、子どものいる家庭は一般的な準備物以外に準備するものが増えます。

● 非常持出袋の中身は



上記の図を参考に日頃から各世帯ごと準備をしましょう。
移動する時に背負う荷物が重くなりすぎないように注意!!
次号は、自宅避難の際、必要なもの様々な工夫をご紹介します。



大矢知地区自主防災協議会のHP及び過去のレポートに関しては

トップページ



http://oyachi.sakura.ne.jp/oyachi_jisyubou/

レポートページ



http://oyachi.sakura.ne.jp/oyachi_jisyubou/03report/report.html